

つながりやすい 地域をつくる

令和5年度神奈川県生涯学習指導者研修「家庭教育支援コース」

東京学芸大学 柴田 彩千子

小さな子を育てる母親を対象とした生涯学習アンケート調査



◆実施期間

- 2018年3月16日～3月22日

◆調査パネル

- ウィメンズパーク会員
<http://women.benesse.ne.jp/>

◆調査対象

- 第1子妊娠中～小学生のママ

◆有効サンプル数

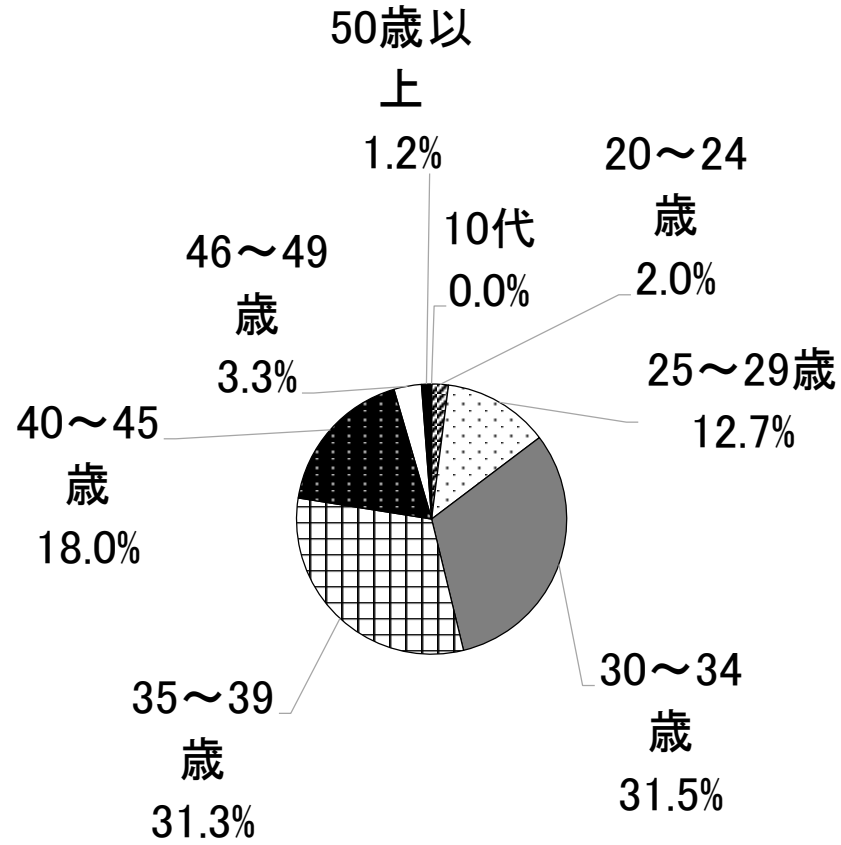
- 600

「子育て中の母親および父親の「学び」に関する研究」
東京学芸大学柴田研究室×ベネッセコーポレーション

回答者の年齢・居住地

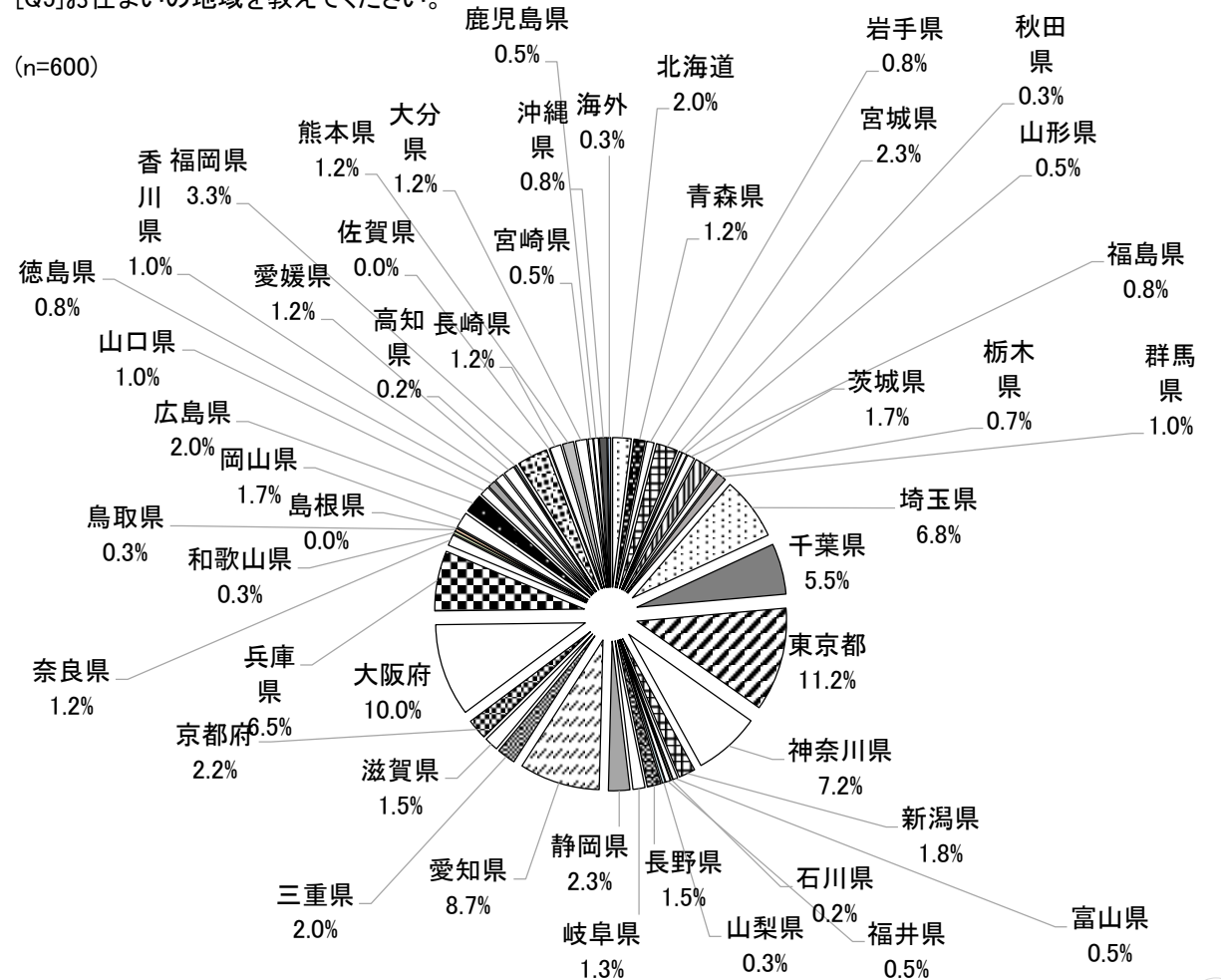
[Q4]あなたの年齢を教えてください。

(n=600)



[Q5]お住まいの地域を教えてください。

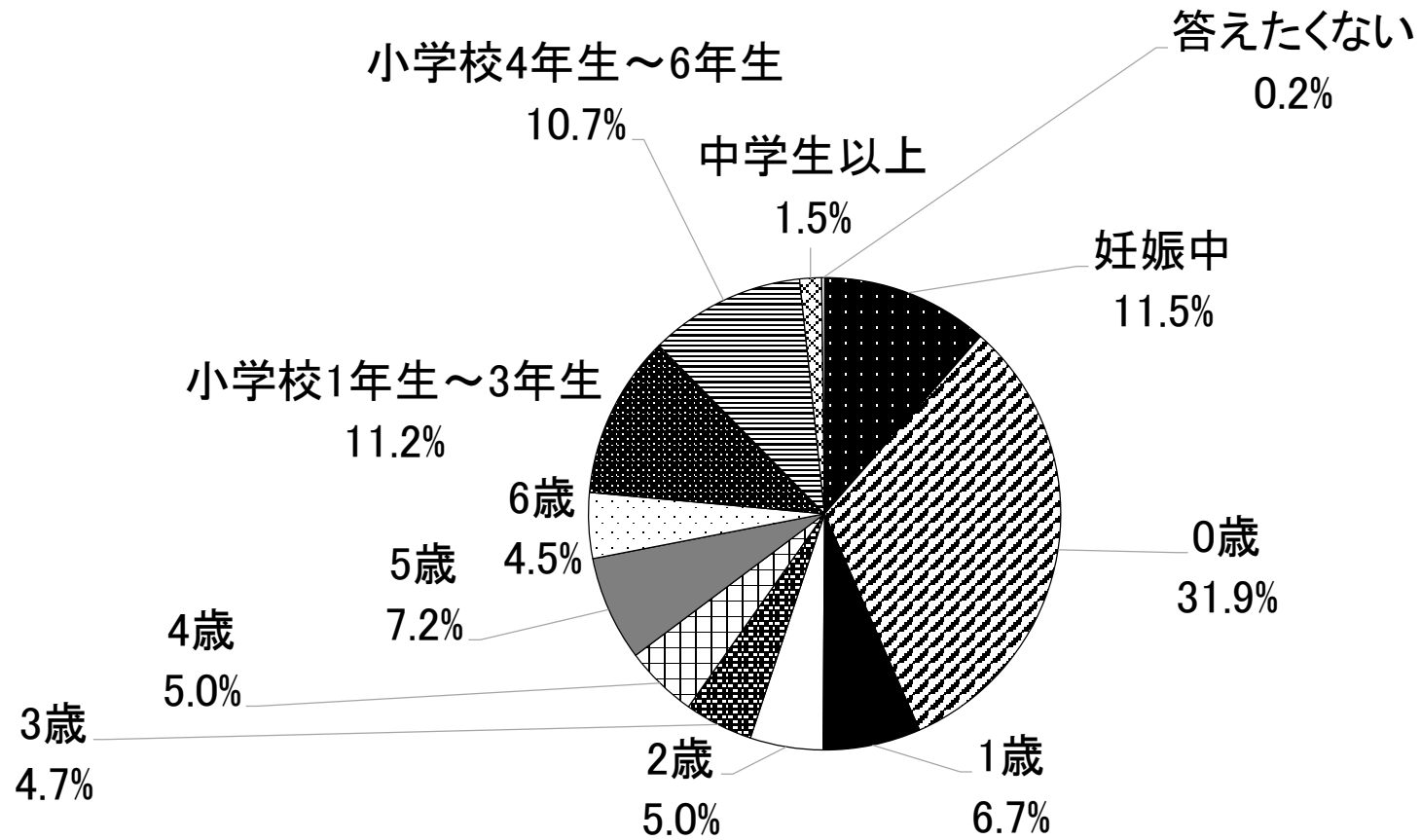
(n=600)



長子の子どもの年齢

[Q2]長子のお子様の年齢を教えてください。

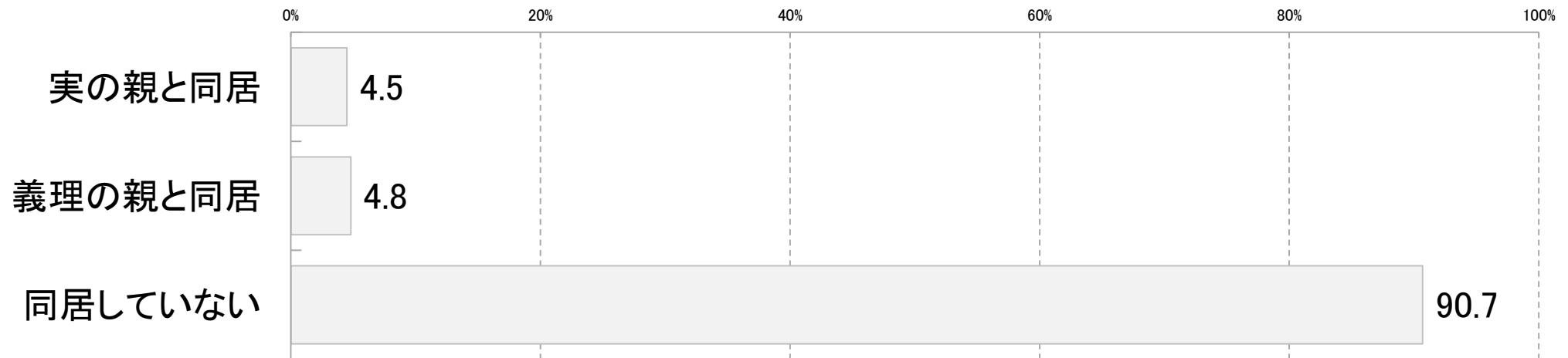
(n=600)



親との同居の状況

～約91%の回答者が、「同居していない」～

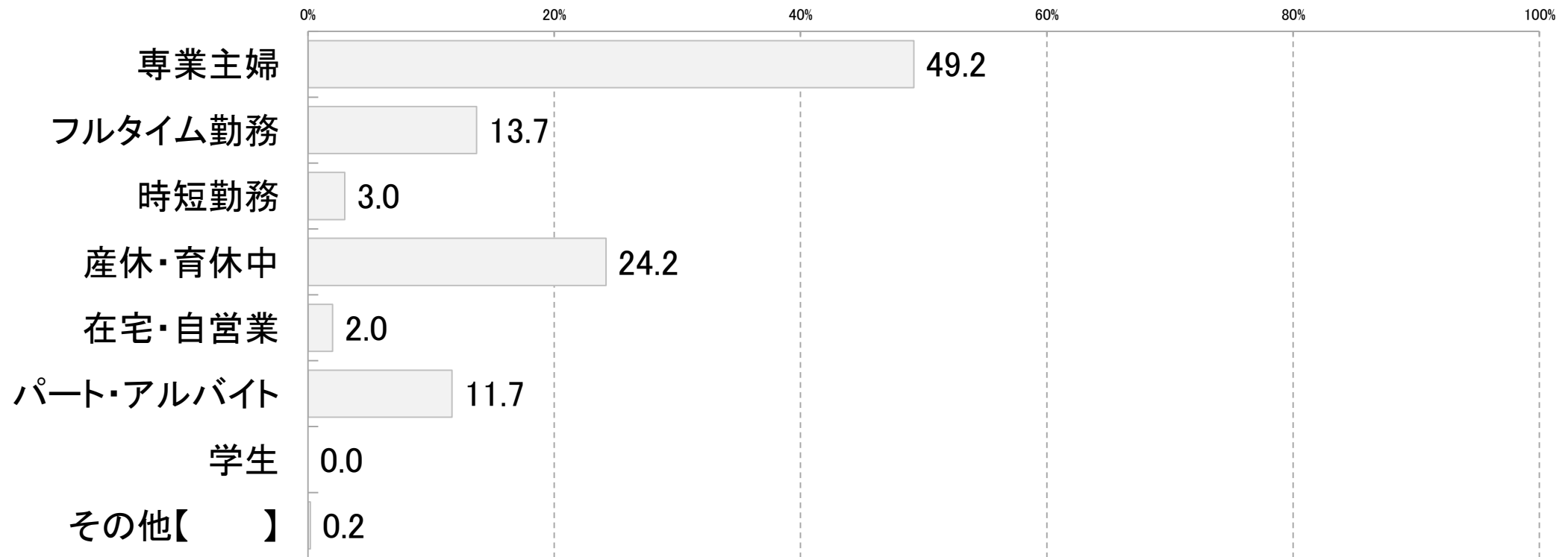
[
(n=600)



職業の状況

[Q6]あなたの職業を教えてください。(いくつでも)

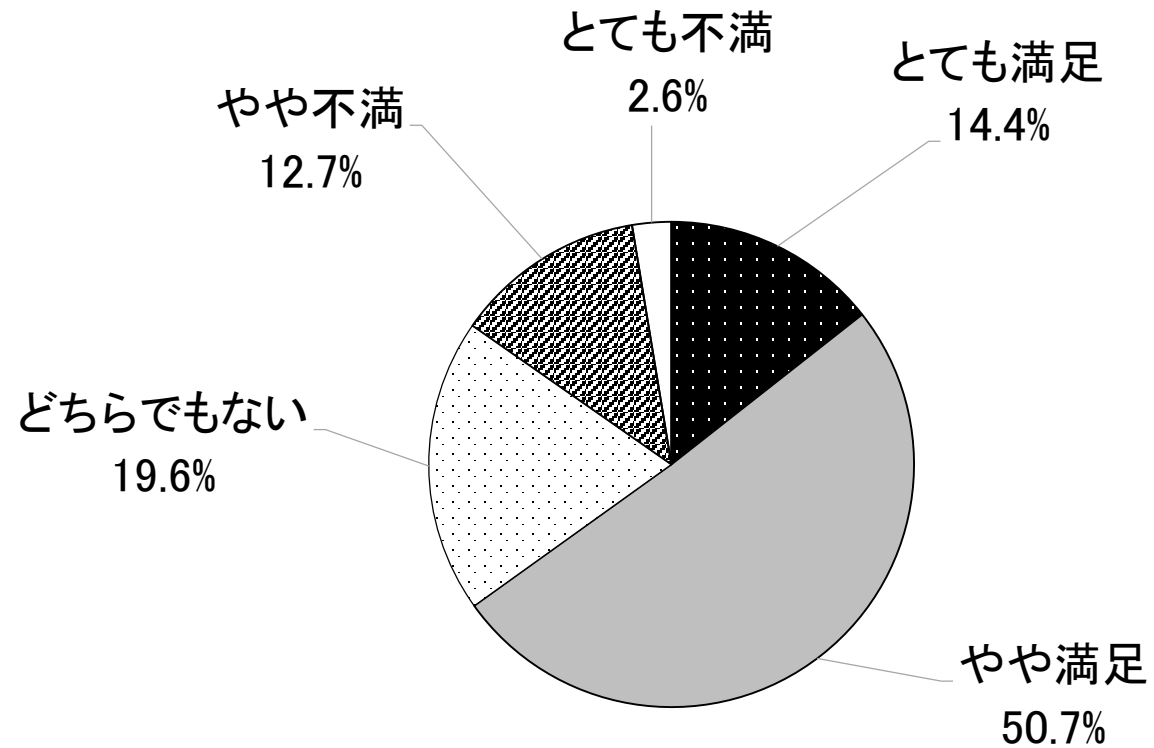
(n=600)



仕事の満足度

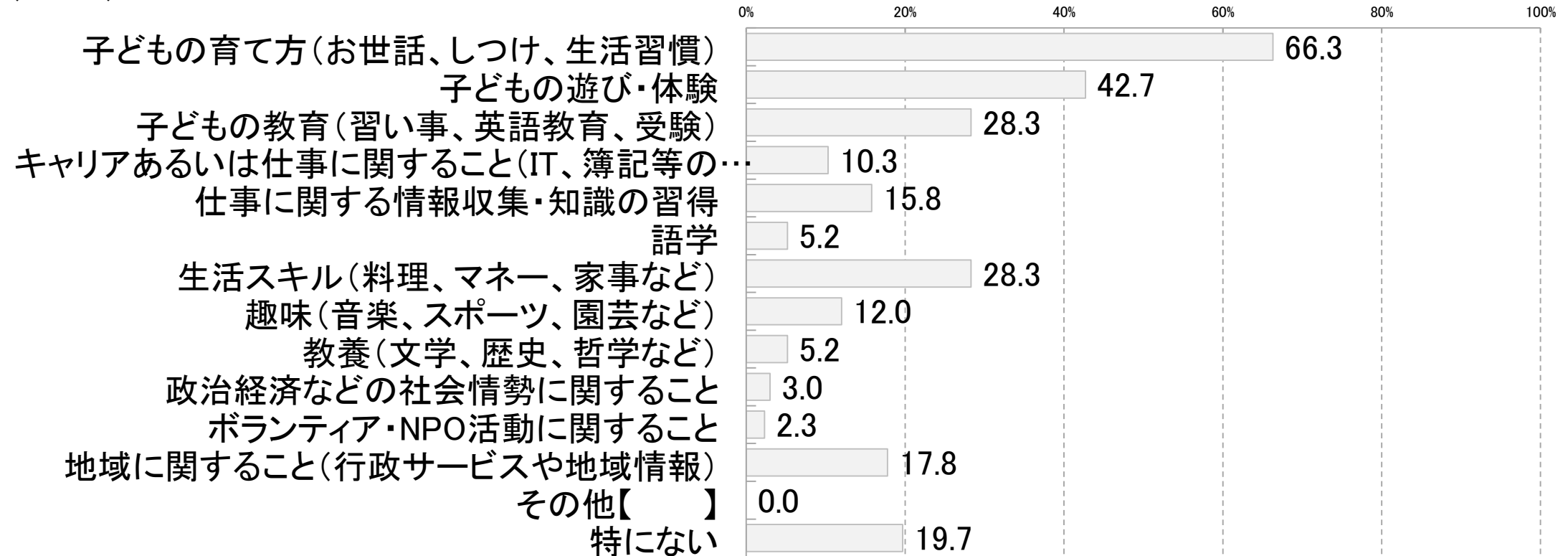
[Q8]今の仕事の満足度を教えてください。

(n=306)



妊娠中や産後に学んでいること・学んだこと

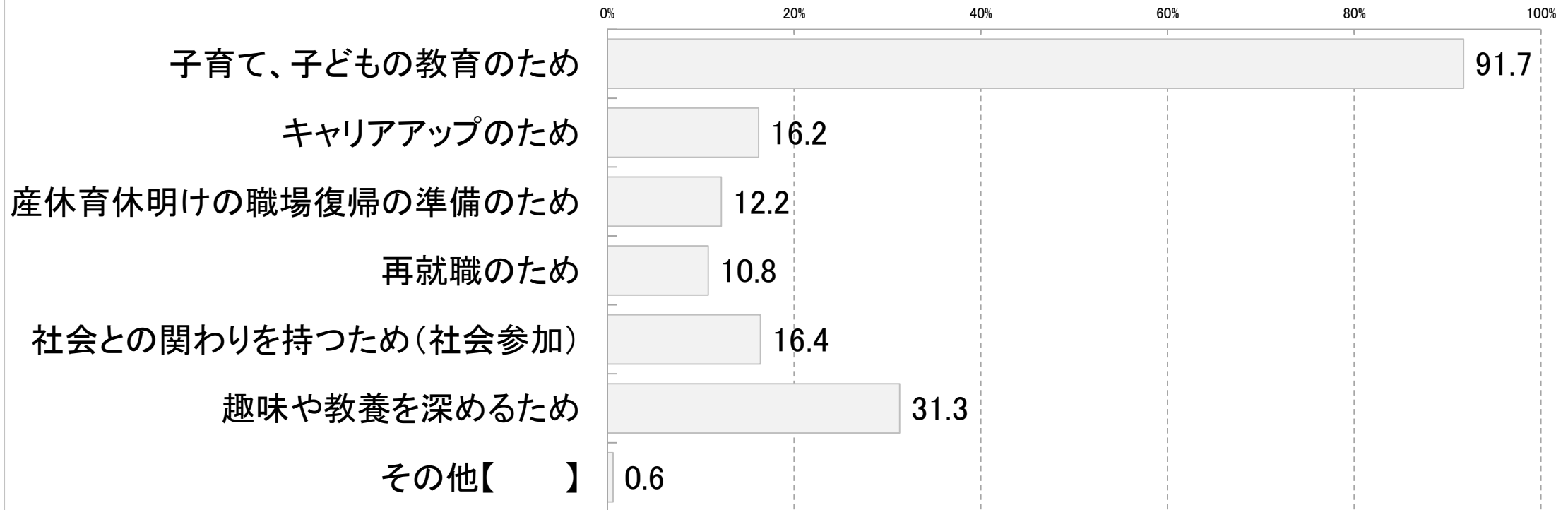
[
(n=600)



学ぶ目的（生涯学習について）

[Q12]学ぶ目的を教えてください。(いくつでも)

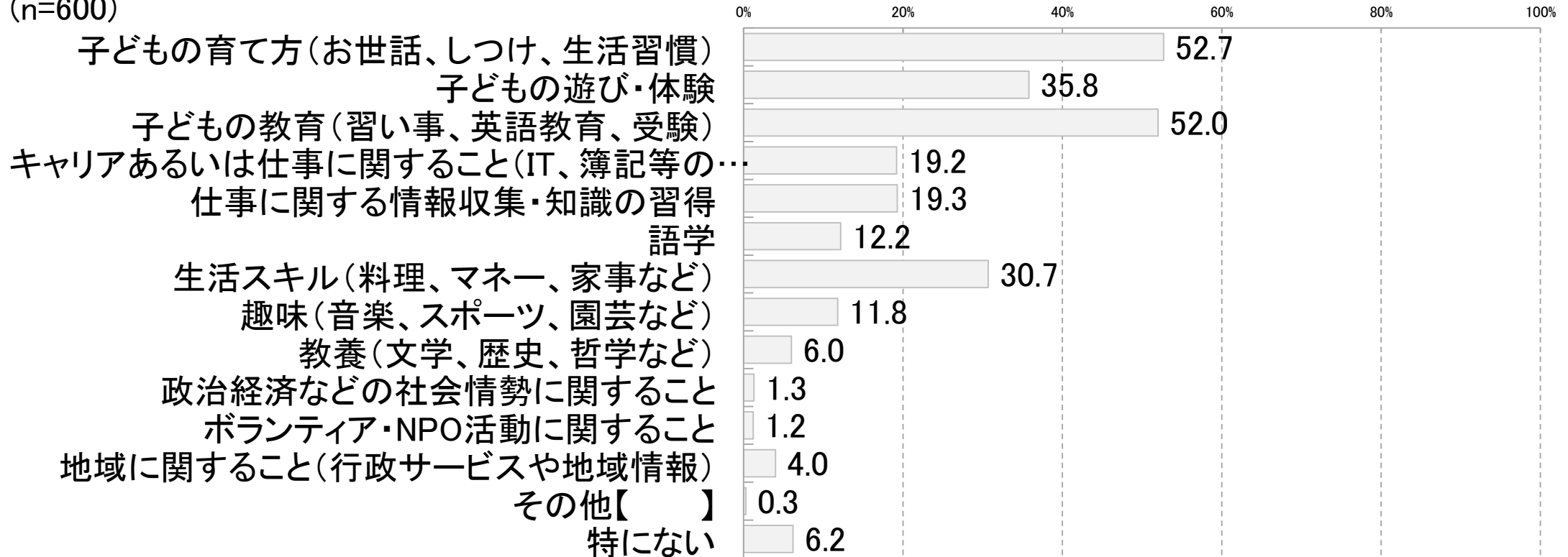
(n=482)



これから学びたいこと（生涯学習について）

[Q13]これから学びたいことがあれば3項目まで教えてください。

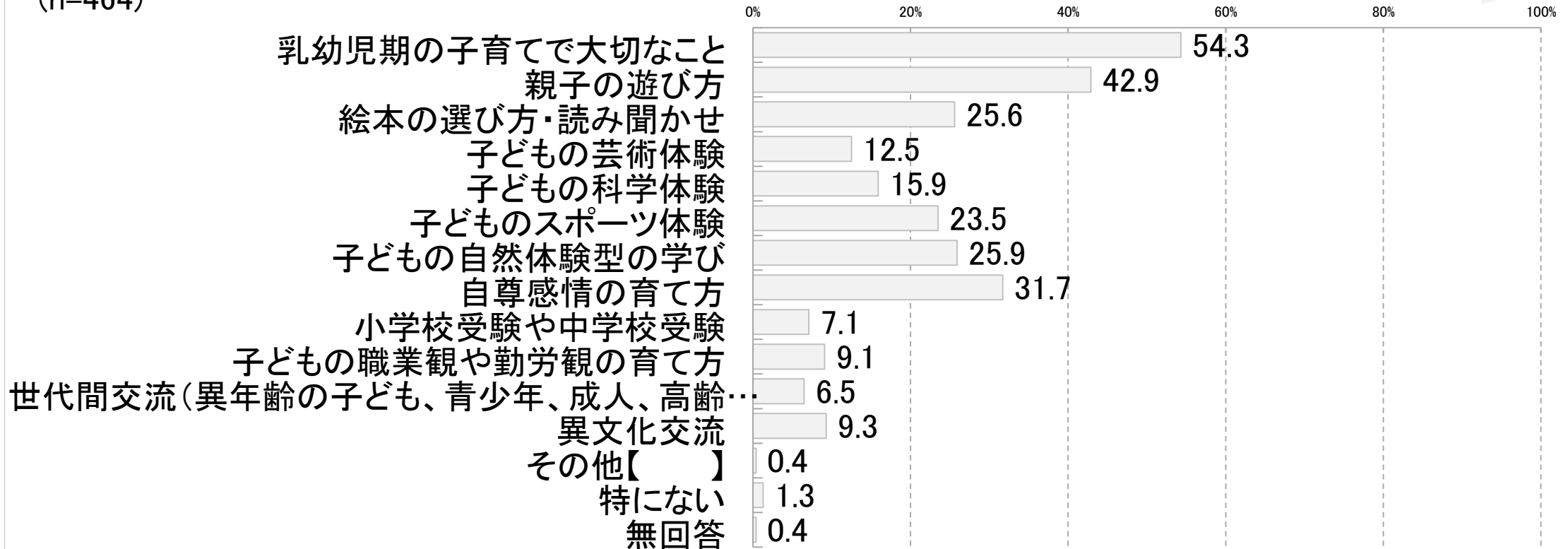
(n=600)



参加してみたい講座やイベント（生涯学習について）

[Q15]次の項目の中で参加してみたい講座やイベントを3項目まで教えてください。

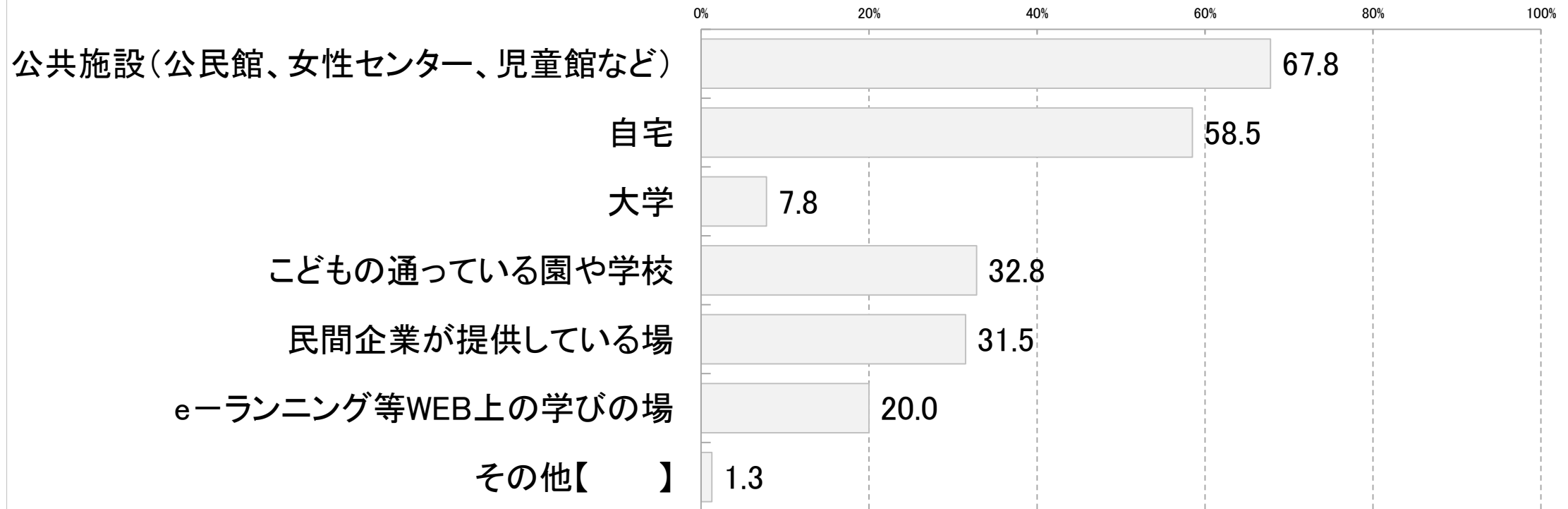
(n=464)



学びたい場所（生涯学習について）

[Q17]学びたい場所を教えてください。(いくつでも)

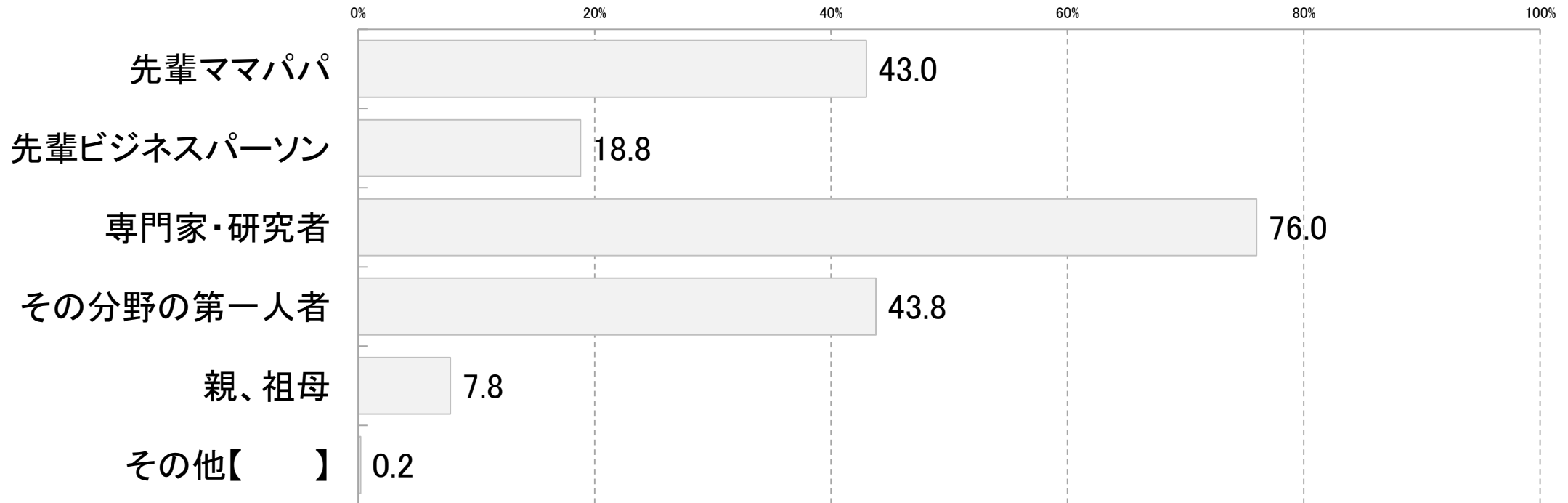
(n=600)



学びたい人（生涯学習について）

[Q19]どんな人に学びたいですか。(いくつでも)

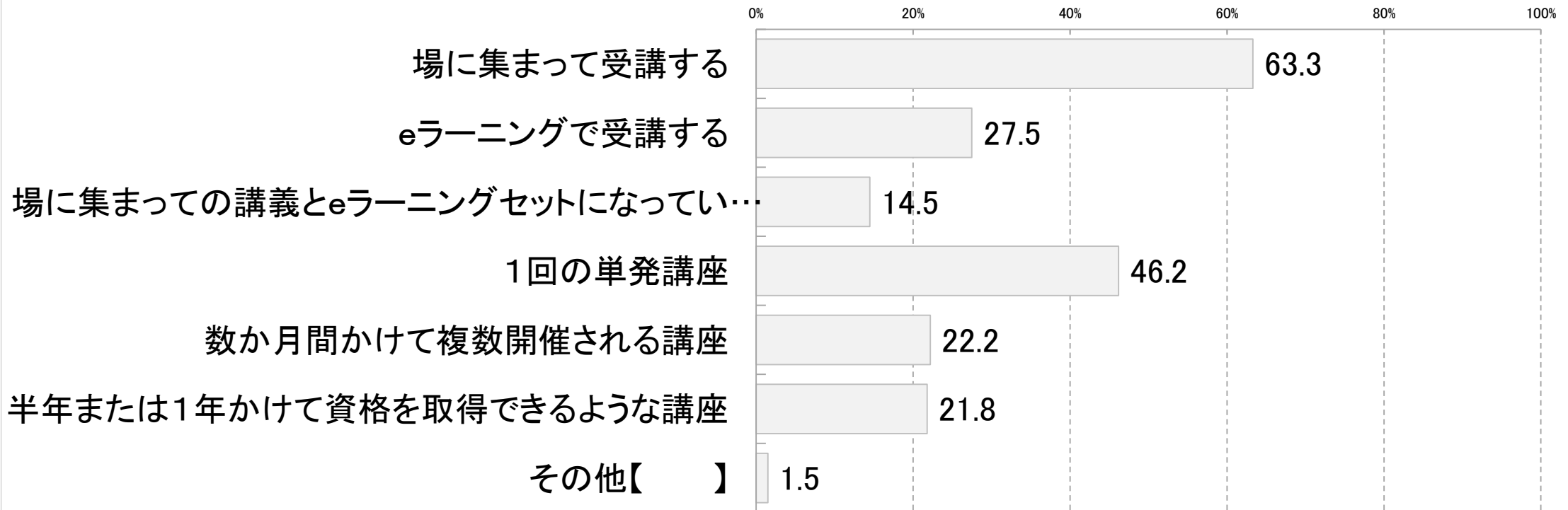
(n=600)



理想の学習スタイル（生涯学習について）

[Q21]理想の学習スタイルを教えてください。(いくつでも)

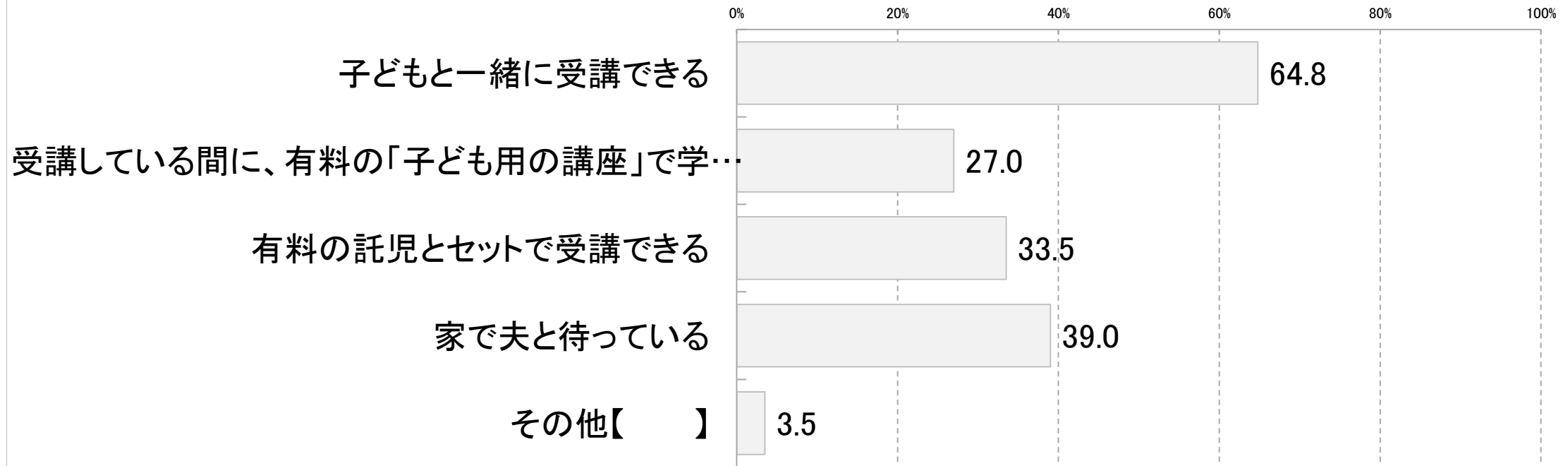
(n=600)



自分が学んでいる間の子どもの過ごし方（生涯学習について）

[Q23]自分が学んでいる間、子どもにどのように過ごして欲しいですか。(いくつでも)

(n=600)



小さい子どもを育てる母親の学習ニーズ

- 妊娠中、産後の母親：子どもの育て方（お世話に仕方）、遊び方（体験活動）について学んでいる。
- 子どもの育て方や教育に関心がある。次いで、生活に必要なスキルについても学びたい。
- 集合学習（対面）
- 公設の施設で学びたい（自宅でのオンライン講座も）。
- 専門家、子育ての先輩に学びたい
- 子どもと一緒に受講できる、あるいは、自分自身が学んでいる間、子どもが有意義な時間をすごしてくれていることに安心感を持ち、自身の学びに集中することができる。

有職者の母親の抱える主な葛藤

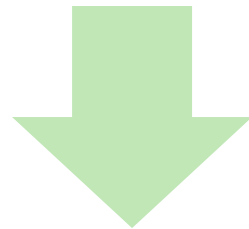
キーワード	葛藤の内実
制限される時間	<ul style="list-style-type: none">●育児、仕事、家事の生活時間の制限●子どもと向き合う時間の制限●自身のための時間の圧倒的不足、等
職場・仕事	<ul style="list-style-type: none">●職場への後ろめたさ（制限される働き方）●職場からの成果の要求の程度（時短勤務）●家計の為に働かなければならない状況●やり甲斐を追求できない状況、等
相談相手・頼れる存在	<ul style="list-style-type: none">▪ 身近に頼れる存在がない▪ 身近なロールモデルがない、等

専業主婦の母親の抱える主な葛藤

キーワード	葛藤の内実
制限される時間	<ul style="list-style-type: none">●自身のためのまとまった時間の制限●終わりの見えない家事と孤育て、等
仕事	<ul style="list-style-type: none">●家計の為に働く準備（保活）●再就職後の不安（仕事と家事や育児の両立）●仕事のブランクがあることへの不安、等
ライフデザイン	<ul style="list-style-type: none">●社会からの疎外感や焦燥感●自身の将来に向けた学習機会がない、等

小さい子どもを育てる親の状況と求められる学習機会

- 子どものために、子どものお世話に仕方、教育、遊び方、自尊感情の育て方学びたい。
- 自分自身のための学びは後回し（制限される時間）
- 家計のために働くことへのプレッシャー（時短労働など職場への後ろめたさ、再び労働市場に参入することへの不安感など）
- 身近に相談相手や頼れる存在がない



以上の状況に対応した学習機会が求められる！

事例紹介①：小さな子どもを育てる親のつながりづくりの講座



「子育ては未来育て
まず自分に戻れる時間をつくろうよ」

- 2002年（平成14年）9月～11月
- 小金井市貫井南公民館
- 企画実行委員（女性・子育て中）
- 公民館担当職員がサポート
- 全10回講座(毎回90分間＋ふりかえり)
- 保育付き（公民館講座担当のボランティア）

東京都小金井市の公民館の特色


- 公民館企画実行委員会の制度
 - 公募市民によって編成
 - 各公民館（5館）に5名～7名程度の委員
 - 各館の主催事業を職員とともに企画立案する。
 - 企画実行委員の個人的な「思い」を、講座の企画に反映し、地域社会の課題として取り組める。
- 保育付き講座の充実
(1970年代～多摩地域の多くの公民館に保育室が設置される)

全10回	タイトル	内容
9/20	オリエンテーション	講座に関する説明と保育の心構え
①9/27	ワークショップって何？自己紹介	ワークショップの心構え、この講座の解説、アイスブレイク
②10/4	交換しようみんなの思い	グループワーク①子どもたちの周りの様子②今抱えている問題③将来の親へのメッセージ
③10/11	ふかめよう その思い	グループワーク テーマ子育ての悩み
④10/18	確かめよう そのわけを	グループワーク 三回目に出た悩みから三つのグループに分かれ問題の背景を考える
⑤10/25	シンポジウム	小金井で一步踏み出した人たち 6人
⑥11/1	こうなったらいい私たちの未来と子育ての解決の糸口	ミニトークとグループワーク 事務局を担う実行委員の思いと自己尊重トレーニングによる自分のいいところを探しのあとフリーディスカッション
⑦11/8	こうなったらいい私たちの未来と子育ての解決の糸口	グループワーク 二つのグループに分かれどのような未来を描きたいか意見を出し合う。
⑧11/15	講演会	子どもの遊ぶ権利・育つ権利 天野秀昭氏（日本初プレーリーダー）
⑨11/22	まとめてみよう私たちの思い	講師と実行委員からの5つの提案
⑩11/29	伝えよう広げようあなたの発信	車座トーク（自分が何をしたいか何ができるか）とグループトーク（プレーパークや居場所、情報誌）

本講座の特色

- 保育付きの講座
→ 乳児を連れて外出できる居場所
- 講座の間、子どもから離れて「息抜き」ができるが、子どもも有意義な時間を過ごしている安心感がある。
- おしゃべり、お茶を楽しむ
- 全10回の講座後にふりかえりの時間を設定（自由参加）
→ 5回目以降は受講生が自主的に残り、お弁当手配などの役割分担をする。
- 受講生が主役

参加者の
意識変容
～インタビュー
調査から～

- ① 日々の大変な子育て
保育付きの講座だから「息抜き」ができるので、
講座への**参加**を決める  **まずは参加することが大切**
- ② おしゃべり、お茶を楽しむ
- ③ 話せる内容の広がりや深まりを徐々に実感
- ④ 自分にも何かできるんじゃないか？という思いの
芽生え
- ⑤ 子育て「自分の課題」を「地域社会の課題」とし
てとらえるまなざしの獲得
- ⑥ 乳幼児を育てる母親の居場所をつくりたい！

意識変容を促した要素

- 語り合える仲間がいる→気持ちが楽になる
- 無理しない、楽しむスタンス
- 対話を重ね、共感することから、信頼関係の構築
- 共に活動する仲間の獲得
- 担当職員によるサポート
 - 毎講座の記録を冊子に編集。
毎回のふりかえりの手掛かりとなった。

講座修了後・自主グループ化へ

- ①親子広場をつくろう
- ②子育て広報誌をつくろう
- ③プレーパークをつくろう → NPO法人こがねい子ども遊パーク へ発展！市の事業を受託

背中を押したひとこと

「なぜ、子育ての環境が解決されないのか？」

「母親は我が子の成長とともに、母親の子育ての苦労の内容が変容している。母親は苦労（子育ての課題）を置き去りにして、我が子の成長とともに歩んでいる。ならば、今感じている課題を忘れないことが大切である。」

→「私の中に忘れたくない思いがたしかにある！今ならその課題に取り組めるのでは？」

自主グループへの支援の内容

- 担当職員が自主グループを一年間サポートする。
- 場所の提供（毎週金曜に公民館に集い夢を語る）
- 人と人をつなぐ（地域に精通する職員）
例）母親集団×農業講座の集団（土いじりはプレーパークに通じる。ボランティアに来てくれる。）
- 資材置き場を交渉して設定
- 市の車を手配（運転）
- 広報のサポート
- チラシの作成方法

担当職員のスタンス ～インタビュー調査より～

- 市史を読み、地域を歩く
- 自主活動をしている市民に会い話を聴く
- 講座の参加者の話をよく聴く
- ニーズを知り、どんな人とつながりたいかを把握する。人と人をつなぐ。
- 自分自身の意見を主張しない
- 予算の確保
(市の予算以外に助成金の情報を有する)
- チラシ配布は重要、口コミも。

事例紹介②：公民館（学習館）での交流事業



かわせみカフェ事業(立川市幸学習館)

市民（地域学習館運営協議会）

× 市職員 × 大学

- ✿ 生涯学習からはじまるまちづくり
： 地域学習館（5館）を拠点として
- ✿ 学習館運営協議会における学び
- ✿ 学習館職員によるサポート

「かわせみカフェ」の概要

[テーマ] 子どもから大人までの世代間交流の場
住民の地域理解へのきっかけの場
住民間の情報交換の場

* 2015年度から毎年実施

* 当初は毎年6月に開催される学習館祭り（かわせみ祭）の期間に合わせて、祭りに参加する人々の休憩所を兼ねた交流の場をつくるために実施。

* 2018年度から単発事業として開催

→かわせみカフェのために学習館を訪れる人々をより多く集めるため。参加者136名。

* 2019年度から毎年12月に開催（全館貸し切りで実施）

* 毎年サブテーマを設定（2023年：食育、2022年：平和、2021年：防災）

2022年度の「かわせみカフェ」の紹介



事業実施までの流れ

- ① 学生が企画案を作成し、地運協の場でプレゼン（サブテーマ決め）
- ② 実現可能か否か、あるいは実現させるための具体策の話し合い（地運協）
- ③ 大学に地運協委員と学習館職員が参加して市民のニーズは何かということから事業の具体案についての協議を実施。役割分担の確認。



学生にとっては、自分たちの発案した企画を実際の事業につなげることのできる機会であり、この事業化への過程では、地運協委員や行政職員が可能な限りの支援を提供してくれる。

学生が学んだこと

- 学習館で行う事業を企画する際には、まずは当該地域を理解することの重要性
- 多様な人々が協働することの意味
- 企画事業に対応した広報の在り方（対象や範囲）
- 参加者の様子を観察することによって、地域のつながりを作りたいというニーズを実体験を通して理解したこと
- 企画の事後評価を行う際の視点

地運協や市民にとっての連携の意義①

○地運協：若者の発想でつくられる学生の企画に対して、緩やかに参加者同士が繋がり合える仕掛けがあることを評価し、高齢者と大学生をはじめ地域のさまざまな人々が協働してつくりあげる場づくりであることに意義を見出している。


○地域課題を把握する場となること

たとえば、カフェに参加するさまざまな子どもの様子から、地域による見守りが必要な家庭の子どもがいることを把握したり、子ども支援に関わる市民が自然な形で支援を要する子どもと直接話をする場となった。

地運協や市民にとっての連携の意義②

子育て支援の取組みの場としての意義

幸学習館では、地運協が発足して間もなくの頃から、子育て支援の講座を毎年開催している。この子育て支援講座はニーズが高く、募集定員がすぐに満員となるため、現在までの約10年にわたって継続実施している。開催年度によっては、参加者が講座修了後に自主グループを結成するケースもある。かわせみカフェへの乳幼児連れの母親の参加が多いこと背景として、地域の学習ニーズがあることがわかる。乳幼児連れの母親が、子どもと少しの間だけ離れてほっとできる一時を過ごすことは、母親支援の視点のみで捉えるのではなく、実は子どもにとっても安心できる状態で母親と離れて、学生や高齢者とふれあいながら自由且つ自主的に遊ぶことのできる機会となっている。



御清聴ありがとうございました
配付資料は写真を削除したものとなります。